

第1回 介護・医療連携推進会議 議事録

開催日時：平成28年1月14日（木）14時～15時半

開催場所：介護老人保健施設ステップハウス宝塚 会議室

出席者（敬称略）：宝塚市医師会、民生児童委員、自治会長、宝塚市介護保険課担当者、
地域包括支援センター所長、事業所関係者2名、
管理者、計画作成責任者

欠席（敬称略）：ご本人、ご家族

議題1、出席者の紹介

議題2、事業紹介。24h ケアステーション こはま のパンフレットを基に説明を行う。
在宅でのサービスの必要性も高くなり昨年10月からサービスが開始となった。
ヘルパーが主体となり定期的な訪問に加えオペレーターが365日24h電話にて
対応。随時訪問も行う。看護も一体型でありDrの指示書に基づき看護も入って
いる。臨機応変な時間対応。1日に必要な訪問回数も事業所で決められる。指
定地域は、宝塚市左岸。

議題3、事業内容。運営実績報告書を基に説明を行う。

要介護1の方には、認知症の方で内服確認、空調管理等の見守り支援が多い。
1日1～2回の訪問。

要介護4～5の方には、寝たきりの方では、排泄や水分摂取等で支援している。
退院後の生活リズムを整える為の支援もある。1日4～5回ペースの訪問。

医師より 回数の決定はどう決めているのか？と質問あり。

→事前の話し合い等で決定している。その後も、サービスを行いながら必要に応
じて回数も変更している。

介護保険課担当者より 定期巡回は定額制の為今までのデイ利用回数ではオーバ
ーする為、デイの回数を減らす。と言う話を聞くが。同事例はあるか？

→実際に、デイの回数を減らすのが嫌で定期巡回を諦めた。しかし、状況も変わ
り定期巡回を利用する事になった方はいる。

経済的な負担は出てくる。しかし、サービス調整をした時にメリットのアピー
ルが必要である。と感じる。

議題4、自己評価。在宅ケア研究所の資料を基に評価した。評価表別紙あり。

2-3 10月からの開始であり、ほぼ出来ている。の評価になった。研修会にも参加予
定にしている。職員育成のために定期的な会議や看護師との状況振り返りを行
っている。

2-5 月、金の朝礼にて申し送りをしている。

- 3-6 提供は出来ているが夜間サービスの提供体制は検討が必要。現在は、老健にて夜間対応しているが・・・
- 4-8 タブレットを活用している。訪問時に持参している。
- 5-9 夜中、朝方の訪問は怖い。との声もある。
- 1-(1)-11 利用者の声も聞き対応している。
-14 ヘルパーのみの訪問であっても、看護師と相談している。
- 1-(2)-15 その日の状態によって訪問回数を検討している。
- 3-17 介護・看護を利用している方に対しては、オムツの当て方や家族の関りも連携し対応している。
- 4-19 管理者または、常勤が説明している。CMからも説明している。
- 4-20 CMからプランをもらい在宅生活をするにあたりどんなサービスが必要かをプラン立てている。初回訪問または、次の訪問に計画書を渡し同意を受けCMへ提出している。
- 2-(1)-22 具体的な時間は決めておらず、何時から何時までの間で訪問します。と本人、家族、CMにも伝えている。
- 2-(2)-26 在宅での情報等を提出している。カンファレンスには、本人、医療機関も参加している。
- 医師より インフォーマルなサービスとは？
→包括支援センター所長より 地域のサロン、ファミリーサポート（有償）ボランティア、自治会や民生委員も含まれる。
- 2-(2)-27 医師より 医師、歯科医師会、薬剤師のサポートも入っていない。今後薬剤師も24時間サポートを行うようになる。
地域包括支援センター所長より CMが行う担当者会議にDrや民生委員も参加していくと言う解釈でも良いのでは？
- 3-(1)-28 ホームページ開設予定。
- 3-(1)-29 病院やCM部会へは説明しているが、個人医院やCM事業所の訪問は出来ない。地域への広報も出来ない。
- 3-(2)-31 左岸が提供範囲で、御殿山動物霊園から平井まで広範囲での提供。
事業関係者より 4地区利用者が多い？
→小浜から安倉地区の利用者が多い。
地域包括支援センター所長より 介護保険課担当者へ 将来的には定期巡回事業所を上げて行のか？
事業関係者より 左岸のニーズはあると思うが・・・。
医師より 採算とれる。となれば左岸でも事業所が増える？
介護保険課担当者より→採算が取れるかどうかで、上げていくかを検討しないと出来ないが、もう少し様子を見ていかないと分からない。

右岸の利用者が定期巡回を希望されるのであれば、右岸でも相談によっては提供可能である。

3 - (2) - 32 地域ケア会議やネットワーク会議を行っており参加していく。

Ⅲ-33 利用者家族の出席が難しく、電話で確認した。

- ・ サービスについて いつも電話でしんどいと発言があったが、サービスを利用することで発言が少なくなった。家族の長期旅行時にも、内服やスケジュール確認を行うことで安心して旅行が出来たと。話された。
- ・ 医療度の高い方で、病院から在宅復帰を悩んでいたが、定期巡回を利用し沢山の目で見てもらえ安心感がある。と話された。

議題5、質疑応答

介護保険課担当者より I - (2) - 3 オペレーターは有資格者なのか？

→有資格者である。

地域包括支援センター所長より 認知症の方でどのような形でサービスに入っているのか興味がある。

→内服が確実に出来る。と言うメリットはある。また、Dr、薬剤師、看護師との連携を図りサービスを行っていけるが、ヘルパー事業所は変更しないといけないことがデメリットである。

地域包括支援センター所長より 認知症の方への生活サポートをどうするのかを包括で話が出ている。ケアマネが難しいと思う所は、ヘルパーの事業所を変更しないといけない。馴染めない。相性もある。

民生委員より 利用者がこのサービスを知るにはどのような方法になるのか？全く分からない為もう少し広めてもらえたら、紹介しやすい。

→CM からのが多い。担当 CM に相談してみる。CM 部会にも参加し説明はしている。

民生委員より 民生委員の会にも参加し、サービスの説明話をしてもらえたら・・・

→機会があれば是非参加したい。

民生委員より 地域で暮らす認知症の方は特に、地域との関わりや見守りも必要である。内服も出来ていない方も多。このサービスが使えれば・・・。

鍵の預かりはどうしているのか？

→1日複数回の訪問で、随時の訪問も有るかも知れない為自宅の何処かにキーBOXなどを使用し置かせてもらう。

会議の開催月について

今後の予定として、3月、6月、9月、12月